

令和7年度燕市環境審議会

| 令和7年度燕市環境審議会 記録簿 | | | |
|------------------|---|----|--------------|
| 日時 | 令和8年2月9日(月) 13:30~15:00 | 場所 | 燕市役所 委員会室 |
| 出席者 (敬称略) | <p>■環境審議会委員：出席 10名 佐藤委員(会長)、小林委員(副会長)、大澤委員、大倉委員、 田邊委員、山口委員、内藤委員、木村委員</p> <p>■事務局：6名 市民生活部：本間部長 生活環境課：清水課長、梅沢課長補佐、中村係長、船越主任、津村主事</p> | | |
| 配付資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度燕市環境審議会 次第 ・資料1 第3次燕市環境基本計画 指標の達成状況 ・資料2 生活環境課の取組 | | |

| | |
|-------|--|
| 議事次第等 | <p>開会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市長あいさつ 2. 燕市環境審議会について <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員紹介 (2) 燕市環境審議会の運営について（条例、規則） (3) 会長及び副会長の選任 (4) 会長、副会長あいさつ 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「第3次燕市環境基本計画」の令和6年度における指標の達成状況について (2) 燕市における環境施策の取組について (3) 意見交換 4. 環境審議会会長あいさつ <p>閉会</p> |
| 番号 | 議事内容（主な意見） |
| 1. | <p>開会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>市長あいさつ</u> 佐野市長が開会のあいさつを行った。 2. <u>燕市環境審議会について</u> <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員紹介 環境審議会委員、並びに事務局の自己紹介が行われた。 (2) 燕市環境審議会の運営について（条例、規則） 事務局より燕市環境審議会の運営に関する条例、規則について説明を行った。 (3) 会長及び副会長の選任 委員からの事務局一任により、会長に佐藤委員、副会長に小林委員を選任した。 (4) 会長、副会長あいさつ 佐藤会長、小林副会長よりあいさつがあった。 |

3. 3. 議題

(1) 「第3次燕市環境基本計画」の令和6年度における指標の達成状況について事務局より【資料1-1】【資料1-2】を用いて説明を行った。

～議題(1)についての質疑応答・意見～

【委員】

資料1-1の12ページの1758%という数値はどのように出ているのか。
バスなどの路線数・本数を増やした場合、市の費用等の負担は増えたのか。

【事務局】

数値の出し方としては、令和4年度の現況の76,599人から約400人増の目標値77,000人に到達すると100%となる。

実績が83,649人で令和4年度の現況から7,050人増えたことになるので計算すると1,758%となる。

バスの路線等が増えたのではなく、循環バス等の利用者が増えた。

利用者から利用料金をいただくので、利用者が増えたからといって市の持ち出しが増えることはない。

【委員】

利用者が増えた原因は何か。大きなイベントがあったのか、市民の足代わりになっているのか。

【事務局】

イベント時のみ運行しているわけではないので、日常で使っていただくバスの利用者が増えたということである。

【委員】

市内循環バスや広域循環バスなどのデマンド交通というものはきらん号などのことを言うのか。

【事務局】

市内循環バスというものは市内だけを回るバスのことであり、広域循環バスというものは基幹病院など、市外に出るルートを通るバスになっている。一番増えているのは、デマンド交通になる。

【委員】

悪臭の苦情に関して、前回の審議会で、燕市外の自治体からの影響もあるという話だったが、今年度の苦情も継続してその内容になっているのか。

【事務局】

養豚場の臭いなど、悪臭の苦情になっている場所は燕市周辺に3か所ある。常に悪臭が発生しているわけではなく、年に数回実施する浄化槽の切り返しで出る悪臭がほとんどである。苦情があった際には、該当自治体に苦情内容を伝えて対応をしていただくが、各自治体の対応としてはこれ以上の対応は難しいと感じている。

【委員】

取り組みや市の情報が市民に届いているように感じない。このような取り組みをどのように市民に落とし込もうとしているのか。

【事務局】

ふれあいフォーラムなど、イベント等で生活環境課の取組を紹介している。

(2) 燕市における環境施策の取組について

【資料2】「生活環境課の取組」について、事務局より説明を行った。

～議題(2)についての質疑応答・意見～

【委員】

太陽光発電の耐用年数について詳しく知りたい。また、トリクロロエチレンが、以前大通川で検出されたが、どの工場から出たかなどが分かっているのか。

【事務局】

耐用年数は、太陽光パネル制度上は17年である。しかし、太陽光パネルを製造している企業などにうかがうと、気象条件にもよるが20年から30年は継続して発電するのではないかという回答をいただいている。終末処理場の垂直型太陽光パネルの導入は、そのようなことも含めて実証実験を行っている。

また、垂直型太陽光パネルの導入は、フェンス代わりとして境界線を区切るような役割もあると考えている。

トリクロロエチレンについては、県の担当が大通川の水を水質検査した際に検出された。その後、原因究明のため数か所の追加調査を行ったが、検出されずどこの工場から排出されたかなど原因究明までには至っていない。

【委員】

以前、終末処理場のところに生えていた樹木には、野鳥が住んでいた。その鳥たちが近くの田んぼの米などを食べて被害が出ていたが、樹木が伐採されて農家の人たちは喜んでいる。

【委員】

吉田地区の一人当たりのごみの量の計算方法について知りたい。また、一人当たりの不燃ごみの排出量は吉田地区が多いとのことだが、なぜか。

【事務局】

吉田地区のごみの排出量が多い理由は、合併する前の旧吉田町時代から、吉田地区は春と秋に側溝の清掃を行っている地域が多数あるためである。燕・分水地区は秋の側溝清掃がないため、秋の側溝清掃を行っている吉田地区の不燃ごみの量が多いと考えられる。

計算式としては、その地区から出ているごみの量÷その地区の人口÷一年間の日数(365日)×1,000,000となっている。

【委員】

数字が出ているのであれば、その理由や原因を突き止めなければ、減らすことはできないので早期に調べて対策をとるようにしてほしい。

【事務局】

そのように努力したい。

【委員】

6 ページのグラフの赤い点は何をあらわしたもののなのか。

【事務局】

平均的に減少すると、こうなるであろうという予想線を示している。

【委員】

新しく始めた事業の「MONO²ゆめ未来事業」について、詳しい説明を聞きたい。

【事務局】

市民の方から不要となった雑貨類やおもちゃなどを寄付していただき、その売却益を「子どもゆめ基金」へ積み立てる事業である。

寄付いただいた雑貨類やおもちゃは、リサイクル業者を通じて東南アジアなどへ輸出され、海外で再使用されている。

【委員】

環境指標の中で他課の目標の数値があり、それに対して評価が行われている。目標達成している、していないに関わらず、他課と連携を図っているのか。

【事務局】

順調にすすんでいるのか、なぜ達成できていないのかなど、担当者から聞き取りを行っている。他課と協力してより良い燕市になるようにしたいと思う。

3. 閉会あいさつ（会長）

会長が閉会のあいさつを行った。